

緑地新聞

7

2019年2月発行

初切は初雪と共に



一月十二日。今年最初の活動は、本学教養科目『多摩の里山学』を履修している学生たちと合同で行いました。

最初に、連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方々から竹の種類の違いについての説明を受け、その後、夏の学生企画(参照:緑地新聞第二号)で使用する竹水鉄砲の材料となる竹の伐採を行いました。

私たちが日頃の活動で伐採している竹は、「孟宗竹(モウソウチク)」といい、中国から食用に輸入されてきた種です。節が一つしかなく、比較的太いものが多いとされています。今回伐採する「真竹」は日本固有の種で節が二つあり、細いのが特徴です!水鉄砲に向いている竹は、この「真竹」になります。これまで私は竹の種類についてあまりよく知らず、初めはそれぞ

れぞれの違いを見極めることができませんでした。徐々に見分けがつくようになりました。(※孟宗竹と真竹の由来は諸説あります)竹水鉄砲に適した真っ直ぐで適度な太さの真竹を探すのは大変です。しかし、その後の工程を考えるとわくわくしてきて、楽しみながら伐採することができました。途中で雪が降ってきて、初雪の中で竹を切るという珍しい体験もできました。ある程度、竹を切り倒した後、リヤカーに皆で手分けして竹を積み込み、大学奥地の倉庫へと運びました。この竹が、今後、地域交流へと活かされ、地域の子どもの笑顔へ繋がると今から次の夏が楽しみです!

最後は全体で集まり、感想を共有しました。里山学の履修者からは、「理論で竹の倒し方を理解していてもなかなか思った方向に倒れず、伐採の難しさを感じた」「普段あまり運動しないので、とても高い運動効果を感じた」といった声がありました。

今後ともプログラム以外の首都大生に緑地や竹の伐採の意義について理解を深めてもらえたら嬉しいです。

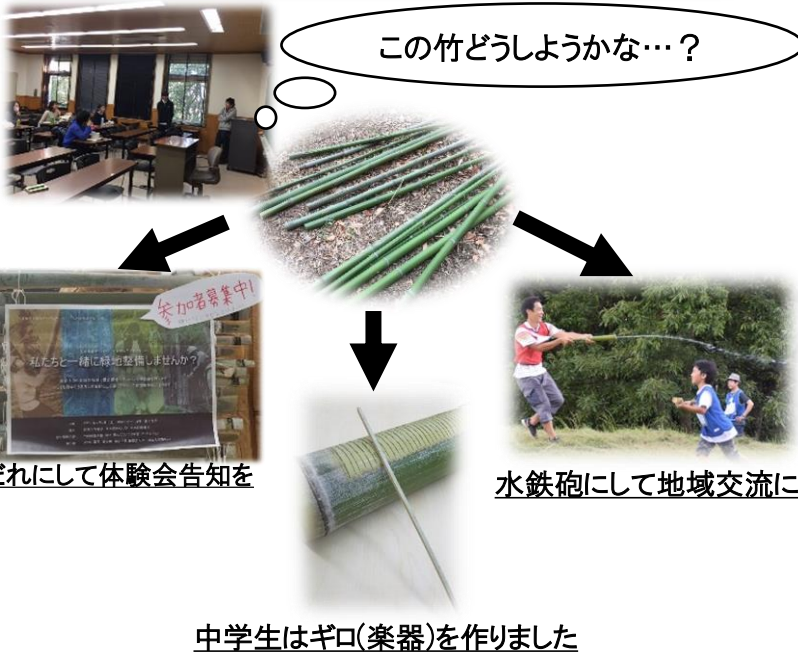


松木日向緑地プログラムとは?

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年、九月から、月に一度程度、下記の社会課題の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。また、伐採した竹を活用して、近隣地域の方々との交流等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティアの意義・社会の課題や背景を学ぶ事前学習・活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である、竹林整備と連動した内容・構成になっています。

無限大!!竹の可能性

~プログラムでの利活用例~



緑地川柳

筍と
まだ見ぬ春を
待ちわびて



編集後記 法学・三年 N
今日の活動も今後の地域交流へと生かしていきます。緑から縁を育む為に、残り少ない活動を一つ一つ大切にしていきたいです。

執筆後記 法学・二年 I
次回の体験会では、私たちプログラムメンバーが再び参加学生に切り方を教える側の立場になります。今回学んだことを忘れず、生かしていきたいです。

? 日本文学史クイズ ?

日本最古の物語とされる『竹取物語』に関連して、文学史の並び替え問題を用意しました! 成立順に正しく並び替えると私たちからのメッセージになります!

- | | | |
|----------|---------|----------|
| ミ. 古今和歌集 | ヲ. 沙石集 | ド. 宇津保物語 |
| イ. 曾根崎心中 | セ. おらが春 | タ. 太平記 |
| ニ. たけくらべ | ツ. 舞姫 | リ. 方丈記 |

参考: <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~gakusyuu/bungaku/bungakumenu.htm> (最終アクセス:2019年1月31日)

社会的課題

- 環境: 里山 荒廃による生態系への悪影響
- 文化: 自然利用の技術や文化の伝承の断絶
- 地域: 少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- 大学: 豊かな緑地資源への認知度の低さ

編集・発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話: 〇四二・六七七・一三五四
メール: tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー